

立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）
プロジェクト研究（共同プロジェクト研究）

2016 年度研究【経過・成果】報告書

研究代表者	所属部局・職		氏 名					
	観光学部・准教授		千住 一 印					
研究課題	戦前期東アジアの鉄道と観光——その近代性と植民地性							
研究組織 (研究代表者・研究分担者) 2017 年 3 月現在	所属研究機関・部局・職		氏 名					
	立教大学・観光学部・准教授		千住 一					
	立教大学・経済学部・教授		林 采成					
	兵庫大学・現代ビジネス学部・教授		李 良姫					
	國學院大學・経済学部・准教授		石井 里枝					
	跡見学園女子大学・観光コミュニケーション学部・教授		老川 慶喜					
	駒澤大学・グローバル・メディア・スタディーズ学部・准教授		高 媛					
	玉川大学・観光学部・教授		曾山 毅					
	青山学院大学・経済学部・教授		高嶋 修一					
	甲南大学・経済学部・准教授		平井 健介					
駒澤大学・経済学部・教授		渡邊 恵一						
研究期間	2016 年度 ～ 2017 年度							
研究経費※ (上段：支出金額)	2016 年度		2017 年度		年度		総計	
	2,293,049	円		円		円	2,293,049	円
(下段：採択金額)	2,300,000		3,000,000				5,300,000	

※1 円単位で記入

研究の概要 (200～300 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

本プロジェクト研究の目的は、アジア・太平洋戦前期における東アジア地域を対象に、そこで成立、発展、展開した鉄道事業と観光現象のあいだの相互関係に着目し、特に近代性および植民地性という枠組みから、両者の関係性を把握することにある。

この目的を達成するため、本研究は各研究組織が依拠する方法論ならびに専門領域を踏まえ、研究組織を「観光学・観光史グループ」と「経済学・鉄道史グループ」のふたつに分け、両グループ間の相互交流を担保しながら研究活動を行うこととした。2016 年度は研究計画にしたがい、各研究組織による調査・研究活動と研究組織全体での問題意識ならびに研究成果の共有を並行して行った。

キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

〔戦前期東アジア〕 〔鉄道事業〕 〔観光現象〕

研究【経過・成果】の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)**はじめに**

研究計画の初年度に相当する 2016 年度は、以下のふたつの枠組みのもと、研究活動を行った。

- ① 各研究組織による調査・研究活動
 - ② 研究組織全体での問題意識ならびに研究成果の共有
- 以下、それぞれの枠組について記す。

① 各研究組織による調査・研究活動

ここでは、2016 年度における各研究組織による調査・研究活動の概要を研究組織ごとに記す。

・千住 一 (研究代表者・立教大学)

戦前期東アジアのなかでも、外国人観光客の誘致が日本のなかで国策化していく過程に着目し、そこでの鉄道事業の位置づけに関する考察を行った。今年度は特に、国策化の前史とも言える 1893 年に設立された喜賓会の活動に注目し、関連する史料の収集ならびに読解を行った。結果、時刻表やガイドブック、地図といった喜賓会による発行物を多く収集することができたほか、鉄道事業および鉄道網の拡大とともに、各発行物における記述が複雑化していることが明らかになった。

・林 采成 (研究分担者・立教大学)

「植民地期朝鮮における鉄道ホテルの開業とその経営」という研究課題を設定し、朝鮮総督府鉄道局、いわば朝鮮国鉄によって鉄道ホテルが如何に開業されて運営されたのかを明らかにし、そのなかで「休憩の近代化」が進められる実態を考察している。そのため、国会図書館、東京大学図書館、京都大学図書館、韓国・国家記録院、国立中央図書館、ソウル大学校図書館などで鉄道ホテル業に関する資料を収集した。今のところ、統計整理とともに、資料を分析しており、その研究成果を日本植民地史研究会の第 25 回全国研究大会 (2017 年 7 月 9 日) で報告する予定である。

・李 良姫 (研究分担者・兵庫大学)

① 現地調査：日本および韓国において駅舎及び廃線の保存と観光化について現地調査を行った。加えて、日韓における鉄道博物館の展示の仕方についても現地調査を行った。その結果、日韓において鉄道を活用した観光資源化が進められており、特に韓国では、日本植民地時期の駅舎や廃線の保存と観光化が積極的に行われていることが明らかになった。② 文献研究：日本植民地時期の鉄道の観光政策に加え、現代に至るまでの鉄道の観光政策に関する資料の収集及び分析を行った。また、鉄道と観光に関する先行研究の分析を行った。

・石井 里枝 (研究分担者・國學院大学)

次年度における論文執筆に向けて、その準備としての資料調査、収集に重点をおいた研究をすすめた。また、本研究に先立って行ってきていた、名古屋鉄道の事業展開に関する内容についての学会報告も行った。名鉄資料館における観光事業に関する一次史料や経営資料、愛知県内公共図書館における新聞や郷土資料の調査・収集において、大きな成果をあげることができた。

・老川 慶喜 (研究分担者・跡見学園女子大学)

宝塚の観光開発で知られる、阪急電鉄の創業者・小林一三の評伝を出版した。2016 年 8 月には、愛媛県松山市の子規記念博物館で「正岡子規と鉄道の旅」という講演を行い、同博物館の刊行物に講演記録を掲載した。さらに、現在『観光と鉄道』(仮)という書名の著書を執筆している。そのほか、文京区が刊行した図録に「後樂園の歴史」という小論を執筆した。資料調査では、2017 年 3 月に大分大学で戦前期に刊行された『観光』という雑誌を閲覧し収集した。

・高 媛 (研究分担者・駒澤大学)

主として二つのテーマについて研究を行った。一つ目は満洲三大温泉の一つである湯崗子温泉に焦点を当て、南満洲鉄道株式会社(満鉄)による開発過程を辿りながら、戦争の副産物としての満洲温泉の特徴を明らかにした。なお、一つ目のテーマについては論文にまとめると同時に、後述するプロジェクト研究による研究報告会においても口頭発表を行った。二つ目は満鉄が中国人向けに設立した中等教育機関「南満中学堂」の実態を、当時通っていた中国人青年の日記を手がかりに考察した。二つ目のテーマに関しては 2016 年 6 月と 9 月にシンポジウムで口頭発表を行い、さらに 2017 年度に刊行される共著書に論文として収録する予定である。

研究【経過・成果】の概要 つづき

・曾山 毅(研究分担者・玉川大学)

まず、日本統治期の台湾において実施された修学旅行について、領台初期から 1930 年代に至る初等および中等教育機関、年代、民族性の差異に注目してその特性の変化について学校関係の史料や新聞記事を用いて整理した。さらに、こうした変化と台湾植民地鉄道の建設・経営との関係について分析した。2017 年 2 月下旬に台湾において鉄道関係の史料収集を行ない、また日本統治期の鉄道関連史跡について台北および高雄で現地調査を行った。

・高嶋 修一(研究分担者・青山学院大学)

鉄道構内営業事業者(駅弁製造・販売)である株式会社東華軒(神奈川県小田原市)の協力を得て、同社が所蔵する歴史資料(明治中期～平成初期)の調査を複数回行った。調査に際してはデジタルカメラを使用して閲覧資料全点を撮影し、データを整理した。このほか、京都鉄道博物館の図書館において、構内営業関係の各種資料を閲覧・複写した。

・平井 健介(研究分担者・甲南大学)

研究テーマは、戦前日本人による植民地旅行の具体像について、阪神財界の重鎮であった平生鈇三郎が残した主要植民地(台湾・朝鮮・満洲)への旅行記を用いて明らかにすることである。2016 年度は、台湾旅行を対象として、主要視察地と交通手段、植民地政府の関与などについての研究報告をおこなった(後述するプロジェクト研究による研究報告会)。また、当該旅行が台湾でどのように報道されたのかについて、台湾で資料調査・収集をおこなった(2017 年 2 月 14 日～18 日)。

・渡邊 恵一(研究分担者・駒澤大学)

2016 年度の研究活動は、本研究テーマに関連する一次資料の調査が中心となり、2016 年 10 月に長崎県立長崎図書館・長崎歴史文化博物館(3 日間)、11 月に奈良県立図書情報館(2 日間)、2017 年 3 月に大分大学経済学部教育研究支援室(3 日間)をそれぞれ訪問した。いずれの調査においても一定の成果を挙げることができたが、長崎でその一端に接した雲仙公園事務所資料や植木家資料については、次年度以降も調査・収集を継続していく予定である。

② 研究組織全体での問題意識ならびに研究成果の共有

ここでは、2016 年度に実施した研究組織全体での問題意識ならびに研究成果の共有についての概要を記す。2016 年度は下記のとおり 3 回の研究報告会を開催し、計 8 件の成果発表が行われた(うち 1 件は研究組織外による発表)。

・2016 年 7 月 23 日(立教大学にて開催)

高 媛「戦争の副産物としての湯岡子温泉」

林 采成「植民地朝鮮における鉄道ホテルの開業とその経営：旅中の休みの近代化」

平井 健介「大阪財界人の台湾視察旅行(1926 年 8 月)：平生鈇三郎を中心に」

・2016 年 12 月 10 日(立教大学にて開催)

西山 有紀子※「箱根ロープウェイの設立と観光開発の展開」

千住 一「2017 年度日本植民地研究会全国大会共通論題報告に向けて」

曾山 毅「日本統治期台湾の教育機関によって実施された修学旅行と鉄道建設：「台湾日日新報」記事を中心に」

※ 西山氏は国士舘大学大学院 科目履修生(当時・研究組織外)

・2017 年 3 月 5 日(立教大学にて開催)

老川 慶喜「戦後北軽井沢の観光開発と長野原町」

李 良姫「韓国における植民地朝鮮の駅舎及び廃線の観光化の現状」

※ この(様式 2)に記入の【経過・成果】の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A 4 縦型横書き 1 枚・自由様式)を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文

老川慶喜、正岡子規と鉄道の旅、子規博だより、35(3)、2016年、4～7頁。

② 図書

林采成、日本経済評論社、華北交通の日中戦争史：中国華北における日本帝国の輸送戦争とその歴史的意義、2016年、306頁。

老川慶喜、PHP研究所、小林一三：都市型第三次産業の先駆的創造者、2017年、333頁。

老川慶喜、文京区、「後樂園の歴史」(『写真で綴る「文の京」：歴史と文化のまち』所収の論文)、2017年、84～89頁)。

高媛、ゆまに書房、戦争の副産物としての湯岡子温泉(『復刻版：湯岡子温泉株式会社二十年史』所収の解説論文)、2016年、3-19頁。

③ シンポジウム

林采成、「満鐵委託經營下の満州國有鐵道」、台北大學歷史學系・台北大學海山學研究中心・台北大學通識教育中心主辦的國際學術工作坊議程「秩序、治理、産業：近代東亞政經發展脈絡的再檢視」、2016年11月25-26日、国立台北大学人文学院。

林采成、「Railway Technology of South Manchurian Railways in China」、*EBHA 20th Congress: World Congress on Business History*、2016年8月25-27日、Bergen University。

老川慶喜、「正岡子規と鉄道の旅」、第62回特別企画展「子規の夏休み」記念講演、2016年8月22日、松山市立子規記念博物館。

高媛、「The School Life and City Experience in Colonial Manchuria: An analysis of a Chinese Youth's Diary of 1936」、*AAS-in-ASIA Conferences*、2016年6月26日、同志社大学。

高媛、「境界をまたぐ身体：戦前満洲の学生日記にみる中国人青年の学校生活と都市経験」、学際シンポジウム「近代日本の日記文化と自己表象」、2016年9月17日、明治学院大学。

曾山毅、「School Excursions of the Japanese Empire: Continuities and Discontinuities」、*International Workshop on Tourism, Japan, and the Asia - Pacific War*、2016年6月18日、同志社女子大学。

曾山毅、「School Excursions of the Japanese Empire: Continuities and Discontinuities (II)」、*2nd International Workshop on Tourism, War, and Modern Japan*、2017年1月22日、同志社女子大学。

④ その他

石井里枝「中京圏における鉄道事業の形成と藍川清成」、社会経済史学会第85回全国大会パネル・ディスカッション『中京圏の産業化と企業者行動』、2016年6月12日、北海道大学。

高嶋修一、「鉄道史資料を守るために：鉄道系博物館・アーカイブの最新動向」、鉄道史学会第34回大会共通論題、2016年9月25日、青山学院大学。